

備えあれば憂いなし

火災予防は家庭から

春を迎えるこの時期は、他の時期に比べて火災が多く発生します。火災は、私たちから大切なものを一瞬で奪い去ります。今号では、市内の火災の状況や家庭での火災予防について紹介します。



冬季に増える火災 3月に一番多く発生

地震・雷・火事・親父、人それぞれ怖いものは違っても、昔から火災は恐ろしいものの一つに数えられています。市内の火災の主な原因は、農地などの火入れやたき火、たばこ、ストーブ、電気器具などの配線からの出火です。火災発生件数の過去10年間の推移は、2017年は多かったものの、おおむね減少の傾向で、20年が最も火災が少ない年でした。しかし、翌21年は大幅に増加。一層の火災予防が求められます。

3月1日から7日は 全国火災予防運動週間

冬季は厳しい寒さにより暖

房器具など火の取り扱いが増えることに加えて、空気が乾燥するため火災の発生が多い季節です。特に3月は屋外での火の取り扱いが増えるため、一年で最も火災が発生する時期です。はじめは小さくてもあつという間に燃え広がる火災。この時期の火災を減らすだけでなく、一年を通して安全に過ごすためには家庭での火災予防が大切です。

市では、火災の怖さや火災予防について子どもたちから学ぶことができるように、園児や児童、生徒への防災教室を開催しています。また、自主防災組織と連携した防災訓練や講話を実施するなど、各地域で火災予防の意識が高まるよう取り組んでいます。

火災は、基本的な防火対策で防ぐことが出来ます。火のそばに燃えやすいものを置かない、火から離れるときは消すなど、日頃から防火を意識し、大切な命と財産を守りま

住宅用防災機器で火災に備える

住宅用火災警報器

全ての住宅で設置する必要があります。日頃からボタンを押す、ひもを引くなどの動作確認をお願いします。

警報器は、古くなると電子部品の故障や電池切れなどにより火災を感知しなくなることがあります。設置から10年を目安に交換するようにお願いします。



消火器

初期の消火に効果的で、被害を抑えることができます。小型の住宅用消火器や軽量なエアゾールタイプもあります。

住宅用消火器の使用年数は、約5年です。使用期限を過ぎた消火器は、破裂による人身事故の危険があります。放置せず新しいものに交換しましょう。



市内の主な出火原因と対策

【農地や山林などへの火入れ、たき火】

風にあおられて周囲に燃え広がる可能性があります。風が強い日は作業をせず、火のそばを離れるときは消火用具などでしっかり消火してください。

【たばこ】

布団や座布団へ火種が落下することによる着火の他、火が消えていない殻が数時間後に発火することがあります。ポイ捨てや寝たばこをしないようにし、灰皿などに吸殻をためないよう注意してください。

【電気器具などの配線】

漏電やショート、発熱などが火災につながります。家具などの下敷きや折れ曲がりに注意してください。プラグやコンセントは清掃し、不要なプラグは抜くようお願いします。

【ストーブ】

近くにある可燃物が原因で火災になることがあります。ストーブの近くに洗濯物を干さない。外出や就寝時などはスイッチの切り忘れに注意するようお願いします。

しょう。

早く発見しすぐに消す 消火が無理な時は逃げる

全国では、逃げ遅れなどによる高齢者の死亡事故が増加しています。死傷者を出さないためには、早期発見と初期消火が大切です。住宅用火災警報器を設置することで早く火災に気付くことができ、火が大きくなる前に消火器などで消すことにより被害を最小限に留めることができます。火が周囲に燃え広がった場合は、無理に消火しようとしなくて、119番通報するようお願いいたします。



消防本部予防課 高嶋 和義 課長補佐

防火への意識を持ち 必要な設備をしっかり設置

火災は起こさないのが一番ですが、万が一発生してしまった場合は早期に発見することが被害を抑えることにつながります。

火災警報器は寝室、台所、階段などへの設置が義務付けられていますが、2021年の調査では市内で適正に設置されている住宅は58%に留まっています。

火災の逃げ遅れは、多くの場合が炎に巻かれて逃げられなくなるのではなく、煙の一酸化炭素中毒などにより体が動かなくなることで発生しています。火災警報器は、煙や熱を感知して音声やブザー音で火災の発生を知らせます。就寝中などでも火災に気付くことができるため、速やかな通報や消火、避難につながります。

死傷者を出さないため、また被害を最小限に抑えるために、住宅用火災警報器を適正に設置するようお願いします。

■通報要領(例)

市消防	通報者
火事ですか、救急ですか	火事です
消防車が向かう住所を教えてください	登米市〇〇町〇〇番地です
何が(どこが)燃えていますか	茶の間のストーブが燃えています (何が燃えているかなど具体的に伝えてください)
けが人や逃げ遅れた人はいますか	けが人はいません。 家族は全員避難しました。
分かりました、消防隊が向かいます	

子どものころからの火災予防の取り組み

幼年消防クラブのつどい



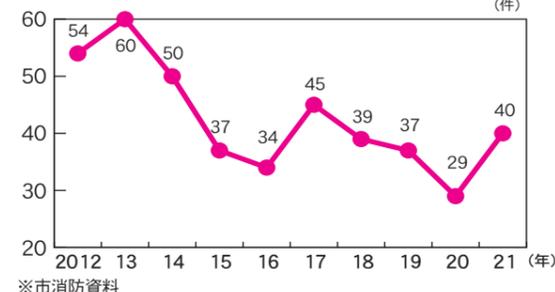
幼年消防クラブを結成している園(所)では、放水体験や消防車への乗車体験などを通して火災予防を学んでいます。子どもたちは、拍子木を叩きながら「マッチやライターで火遊びしません」と防火を誓います。

少年消防クラブの火災予防運動



東和中学校では、昨年秋の火災予防運動時に、生徒会執行部と応援委員の生徒を中心に火災予防に関する活動を実施。暖房器具の取り扱いなどが増える時期を迎え、火の取り扱いへの注意を生徒などに呼び掛けました。

■市内の火災発生件数の推移



■市内の2021年の火災発生状況

